

支持治療

IMFホットラインのコーディネーターがあなたの疑問にお答えします

IMF ホットライン800-452-CURE(2873)ではデビー・バーンズ、ポール・ヒューイト、ナンシー・バクスターそして、ミッシェル・クレペターが終始一貫して骨髄腫に関する最善の情報を、親身になり心をこめて提供します。

この電話は月曜日から金曜日、午前9時から午後4時(太平洋標準時刻)までご利用いただけます。インターネットで質問をご希望の方は、TheIMF@myeloma.org までメールしてください。

私の母は 82 歳で、虚弱で骨髄腫治療に耐えるのが困難になっています。あらゆる治療をあきらめなければならぬのでしょうか。それとも、治療に対する忍容性を高める方法がありますか？

副作用に悩む高齢／虚弱な骨髄腫患者さんが、治療に耐えるという希望を捨てる必要はありません。単純に投与量を減らすことが、治療を続けられる適切な方法になることが多々あります。高齢の骨髄腫患者さんは、心臓、肺、肝臓、腸や腎臓に影響を及ぼす他の病状、すなわち「合併症」を伴うことが多いので、慎重に治療を受ける必要がありますが、「少ないほど豊か」という見解に従う限り、治療を良好に受けることができます。

患者さんが暦年齢より生理学上若いか高齢であるかを医師が判断しますが、投与量を決定する際には年齢に応じた経験則が役に立ちます。

アントニオ・パルンボ博士らによる国際骨髄腫ワーキンググループ(IMWG)の発表で、高齢の骨髄腫患者さん*の治療に関して、以下を推奨します。

- ・ 65～75 歳の患者さんについては、従来の治療法を規定用量で実施すること
- ・ 75 歳を超える患者さん（または重度の合併症を伴う 75 歳までの患者さん）は、投与量を減量、またはより緩やかな治療を考慮すること

以下の投与ガイドラインは最も一般的な骨髄腫治療として IMWG に支持されています。

	65～75 歳	75 歳より高齢	投与量減量
デキサメタゾン 週 1 回	40 mg	20 mg	10 mg
メルファラン 1 ～4 日目	0.25 mg/kg	0.18 mg/kg	0.13 mg/kg
サリドマイド 1 日当たり	200 mg	100 mg	50 mg
レナリドミド** 1 ～21 日目	25 mg	15 mg	10 mg
ボルテゾミブ	1.3 mg/m ² 隔週	1.3 mg/m ² 毎週	1.0 mg/m ² 毎週

患者さんの日常機能を重度に損なう副作用が起きた場合、以下の行動方針が推奨されます。

1. 投与を中止する
2. 患者さんの病態の改善を待つ
3. 本剤を低用量で再開する

薬剤を低容量で投与することは高用量で投与することと同じくらい有効であることを留意することが重要です。許容できる用量で治療を受けると、短期間で大量投与を受けたときより、投与量の合計はよりかえって多くなります。さらに、私たちの体は加齢とともに変化するため、薬剤の「薬効力学的作用(すなわち、薬の吸収、分布、代謝および排泄)」は変化します。そのため、若い患者さんと同じように薬を使う必要はありません。医師は、患者さんが薬剤にどのくらい許容できて反応するかといった個人差を考慮する必要があります。

あなたが、またはあなたの愛する人が骨髄腫であると新たに診断された高齢／虚弱な患者さんである場合、治療を始める前に投与量について医師と話し合ってください。既に治療中の場合、これらの勧告を心に留めていただき、慎重に副作用と QOL を観察してください。安全かつ効果的に骨髄腫治療を続けるために、

承認を受けた薬剤減量法があるので、黙って副作用に苦しむ必要はありません。

いつものことながら、これについて話し合ったり、すべての他の医療問題について、主治医と徹底的に話し合ったり、IMF ホットライン 800-452-CURE (2873)にお電話していただきますようお願いいたします。また、TheIMF@myeloma.org に電子メールを送ってください。現在、IMF ウェブサイト(myeloma.org.)からホットラインのブログにアクセスできます。

* A Palumbo et al. International Myeloma Working Group guidelines for the management of multiple myeloma patients ineligible for standard high-dose chemotherapy with autologous stem cell transplantation. *Leukemia* (2009), 1-15.

** レナリドミドとメルファランを併用する場合、レナリドミドの開始用量を 10mg/日にすること。

出典:「Myeloma Today」SPRING 2011, Volume 8 Number 7: Page12

http://myeloma.org/pdfs/MT805_b5web_.pdf

翻訳者: 吉村

監修者: 日本の医師